

ミカン生育情報

千葉県
平成 19 年 9 月号

平成 19 年 8 月の気象

8月1日に梅雨明けし、これは平年より12日遅かったものの、その後は一ヶ月間好天が続いた。平均気温は、第6半旬以外は平年を上回り、特に第3半旬は1.5、第4半旬は1.4それぞれ平年より高かった。月平均気温は26.6と平年より0.8高かった。

降水量は、台風の影響もなくほとんど降雨がなかった。月合計降水量は6.5mmと平年の約4%であった。

日照時間は、欠測のため下表にはデータが揃っていないが、気象庁（測定地点：鴨川）のデータによると、月合計日照時間は245時間と平年の109%であった。

表1 平成 19 年 8 月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	26.6	25.8	0	28	44	37
2	26.8	25.9	0	24	61	37
3	27.5	26.0	0	24	54	36
4	27.3	25.9	0	33	*	35
5	26.5	25.8	4	27	*	35
6	25.4	25.6	3	29	*	40
平均/合計	26.6	25.8	7	166	*	220

注：日照時間*は欠測

病害虫の発生

現時点で特に発生の多い病害虫はない。カメムシ類の発生はこれまでのところ少ないが、飛来状況は地域や園地により異なるので、園内外を見回り、飛来を確認したら早急に防除を行う。

果実および樹の生育

調査地の果実の生育を平均で見ると、早生温州は横径、縦径ともに平年比96%、普通温州はそれぞれ94、92%となっており、いずれも平年を下回っている。これは8月の少雨の影響と考えられる。暖地園研に比べて園地が乾燥している三芳、千倉では更に小玉傾向となった。

土壌が乾燥している園では葉のしおれなどが見られるものの、現在のところ樹勢に大きな影響は出ていない。しかし若木など根張りが少ない園では灌水が必要であった。

川野夏柑の果径は、それぞれ107、106%と平年を上回った。

表2 果実の生育（平成19年8月30日）

No.	種類・品種	調査地	横 径	縦 径
1	興津早生	三 芳	4.6 cm (91)	4.0 cm (93)
2		千 倉	4.6 (91)	3.9 (90)
3		暖地園研	5.2 (105)	4.4 (105)
4	大津4号	三 芳	4.5 (91)	3.7 (89)
5		千 倉	4.7 (90)	3.8 (91)
6		暖地園研	4.9 (98)	3.8 (96)
7	青島温州	三 芳	4.7 (94)	3.9 (93)
8		千 倉	4.6 (91)	3.7 (88)
9		暖地園研	4.9 (100)	3.9 (96)
10	川野夏柑	暖地園研	7.0 (107)	6.1 (106)
	平 均*	早生温州	4.8 (96)	4.1 (96)
		普通温州	4.7 (94)	3.8 (92)

() の数字は平年値（平成6～18年の平均）を100とした比数

*早生温州： 1～3の平均、普通温州： 4～9の平均

9～10月の栽培管理

摘果 9～10月にかけて、早生温州の樹上選果と普通温州の仕上げ摘果および樹上選果を行う。仕上げ摘果では小玉や大玉、傷果を取り除き、適正着果量まで摘果する。果実同士が密着して変形しているようなところは適宜間引く。樹上選果では収穫直前まで園地を見回り、仕上げ摘果で見落としした小玉や大玉、傷果を取り除き、果実品質を揃える。着果量が少ないため仕上げ摘果を先送りした樹も、この時期に樹上選果をあわせて行う。

枝つり・枝支え 果実の肥大に伴い、重さで地面近くまで枝全体が垂れ下がってくると、日照不足により着色不良果が、また地面とのこすれにより傷・腐敗果が発生しやすくなる。これを防止するため支柱や紐を用いて枝支えや枝つりを行う。

浮皮症の軽減対策 収穫期に過湿条件であると浮皮症が発生しやすいので、防風垣を刈り込んで通風を良くし、排水対策を講じて園地の乾燥に努める。また、カルシウム剤を収穫前までに2～3回散布する。

病害虫の防除

温州ミカン ミカンサビダニは1～2個の被害果を見たら、直ちに防除する。

10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。

中晩生カンキツ類 ミカンハダニは発生初期の防除を心掛ける。かいよう病対策として台風前に薬剤散布する。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話 0470-22-2961
果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>